

2021年3月期決算説明会 主な質疑応答(要旨)

2021年5月11日

株式会社アルプス物流

5月11日(月)の決算説明会はオンライン形式にて実施いたしました。質問と当社説明は下記の通りです。

(電子部品物流の事業環境について)

Q: 半導体不足について、電子部品物流への影響をどのようにとらえているか。

A: まだ3-4月時点で半導体不足によりお客様の貨物量が減ったなどの影響は出ていない。半導体が欠けて他の製品の荷動きが止まってしまうこと、滞留してしまうことは懸念している。

Q: コロナ禍を経て、お客様のサプライチェーンに変化はあったか。生産の国内回帰やグローバルでの生産拠点の変化あるいは変化の兆しがあるか。

A: お客様よりいくつかご相談はいただいている。一つは日本への回帰、特に日本で使われる物の回帰あるいは日本でこれまでよりも多くストックする、というご要望。もう一つは、サプライチェーンが非常に多岐にわたっている物の物流を整流化したい、というご要望。この二つが考えるコロナに起因するサプライチェーンの変化だと思う。

Q: 国際物流で航空貨物の便が増えている要因は、世界的なコンテナ不足の影響があるのか。またこの影響はいつ頃落ち着くと見ているか。

A: 昨年からは海上コンテナ不足の影響はある。また航空貨物のほうも旅客便減便によりスペースが不足している。海上からの変更に加えて生産拠点の分散に伴い、緊急貨物が多い。今年秋口以降に海上のほうが正常化し、航空のほうも正常化すると見込む。その頃には旅客便も少しずつ増え、スペース不足も落ち着くと考えている。

(電子部品物流の事業戦略について)

Q: 倉庫の拡張について、聞かせてほしい。

A: 横浜は2021年11月着工、2022年竣工予定、3,000坪の倉庫を増設する。中京地区は今の予定では2024年に完成予定。中京地区は特に車載関連の物量が増えている、また中京地区だけ自社アセットの倉庫がないので、約1万坪の倉庫を建設する。加須は、2018年に倉庫を竣工したが、さらに延床で約1万坪の倉庫建設が可能な土地を持っている。東北道・圏央道が走る立地条件により需要も増えていることから、倉庫増設を検討している。

Q: 2021年度海外拠点整備、具体的に新規倉庫拠点、ネットワークの立ち上げ等、決まっているものがあれば教えてほしい。

A: コロナの影響があり、歯切れが悪いが、2021年度新規拠点としては、北米のシカゴ、ハンツビル、インドのチェンナイ、プネを下期に予定。東欧についてはチェコ、ハンガリー以外については検討中、現地に強い物流会社と組んでネットワークを拡充する。

Q: 特に注力する地域はどこか。

A: 2020年度は日本が落ち込んだので、まず日本。海外についてはエリアごとの拡充施策に取り組む。

(消費物流の事業戦略について)

Q: 消費物流の新規事業として医薬品物流における当社の強みは何か。

A: 一番の強みは品質とスムーズな商品センターの運営と考えている。

Q: どの範囲まで医薬品を扱うのか。温度管理が必要なものも取り扱うか。

A: 温度管理が必要なものも扱う。商売の形態も様々で、商品センターの運営もお客様のサイトの中に入っていることもある。すべてのアセットを自社で準備するというわけではなくケースバイケース。

Q: 消費物流の物流領域の拡大の部分で、BtoC に注力しているが、EC は競合も多いなか、どのように存在感を示していくのか。新規事業で地域密着の生活関連ビジネス、自治体との連携とはどのようなことか。

A: BtoC については、一つは宅配用・通販用の貨物の商品センターの運営、もう一つは宅配。生協の宅配については今後も広げていく。生協以外の宅配は全国ネットを専用に持っていないとなかなかできないので、例えば薬の場合だと、病院まで、あるいは問屋から店舗まで、というところで領域を広げていく。また EC 用の商品センターは競争が激しい。自動化を含めて他社よりも安い、そして品質が良いオペレーションを作って勝ち残っていきたい。自治体との連携については、例えば宅配サービスに高齢者の健康確認を付加する、あるいは店舗と宅配を合わせた全体の町おこしなど。既にいくつかの自治体と交渉を行っている。

(その他)

Q: あらゆる物流コスト、特に国際物流のコストが高騰している中、お客様あるいは親会社との取引で適正な利益水準は維持できているか。

A: 当社では社外取締役だけで構成する取引審査委員会を設置しており、親会社との取引が適正か定期的に審査している。親会社も顧客のひとつと考えている。国際輸送コストの高騰を受け、顧客や仕入先と価格交渉を行っている。貨物量が増えれば混載の粗利率も上がるので、そういったことを含めて利益確保に努めたい。

Q: 東証一部への指定替えをしたが、今後プライム市場での上場維持に関する考え方を聞かせてほしい。

A: プライム市場への上場基準を確認しているが、市場一部からプライム市場への移行というのが自然で、市場の期待もあると考えている。

以上